

International Bulletin

Fraternitas

Ordo Fratrum Minorum

387

Edition

Volume LIX | 9th September 2026



INDEX

教皇レオ14世、 アシジのサンタ・マリア・デリ・アンジェリ訪問	1
総本部の予定	3
総長、クロアチアを訪問 「聖なる贖い主管区」の兄弟たちと交流	3
「聖フランシスコ・ファウンデーション」の 兄弟たちの会合	4
兄弟マッシモの視点(2026年8月)	5
St. Beatrice de Silvaの祝日に際する総長の手紙	5
いままアジアで続くフランシスコのイースター	6
Franciscan Bookmark	6
ブラジル無原罪の御宿り管区、「幕屋の集会」を開催	7
フランシスコの愛を示す	8
マダガスカルの聖フランシスコ800周年の記念	9
The Art of Living. 800 Years of St Francis of Assisi	9
メキシコ聖福音管区、管区会議開催	10
兄弟Taucen、南アフリカ 「平和の元后聖母管区」を訪問	11
養成、学問事務局の国際会議開催	12
有期誓願兄弟の養成担当者への手紙	12
Life in the Order	13
世界のOFM	14
在世フランシスカン、第二回全アフリカ大会	16
ウガンダの在世フランシスコ会、全国選挙総会	16
エルサルバドルにおける 40年にわたる観想的な生活	17
2026年被造物の季節	18
コロンビア緊急支援2026に対する 総長の呼びかけ	19
インドネシア・フローレス島地震： 被災者に対する寄り添いと祈り	20

教皇レオ14世のサンタ・マリア・ デリ・アンジェリ訪問

2,500人のヨーロッパの
若者たちに向けて、
愛の文明を築くよう招く

1221年5月30日に、5,000名の兄弟たちがサンタ・マリア・デリ・アンジェリに集まり、ともに祈りをささげた。それから800年を経た2026年8月6日、同じ場所にヨーロッパ各地から2,500人の若者たちが集まって、教皇となつてから二度目のポルチウンクラ訪問を行なった教皇レオ14世を歓迎し、ともに祈り、対話した。

フランシスカン家族の総長たちが提案し、アシジのフランシスカン（小さき兄弟会、カプチン会、コンベンツアル聖フランシスカン）が、アシジーノチェラ・ウンブラーグアルド・タディーノノーフォーリーニョ教区およびアシジ市の協力のもとで開催したイベント、「ゴー！フランシスカン・ユース・ミーティング」の最後を飾るこの会合は、期待を裏切らなかった。

教皇レオ14世は、若者たちをはじめ多くの人々で埋め尽くされたバシリカの前庭において、フランシスカン家族の第一会の総長たちの前で、ウンブリアーサルデーニャの小さき兄弟会セラフィム管区の管区長



WWW.OFM.ORG

の兄弟Marco Vianelliから歓迎のあいさつを受けた。続いて、待ちに待った若者たちとの対話が行なわれた。若者たちのなかから3人、クロアチア出身のKarolina、イタリア出身のGiovanniとLuigiが、教皇にそれぞれ、若者の生活や現実、そしてあまりにも急速に変化しすぎて疑問や不安が残る世界について質問をした。

ザグレブ出身のKarolinaは、どのようにしたら同世代の人々に希望をもたらすことができるだろうかと質問した。教皇レオはこの質問に対し、聖フランシスコを例に挙げて、その福音的な徹底性、キリストに従うこと、そしてキリストの名のもとにともにいる喜びについて語りながら、「どこにいたときも、とくに技術によって人々が互いに顔と顔を合わせて出会うことがまれになっている時代において、このことをあかししてください」と答えた。

一方、ボローニャ出身のGiovanniは、過ぎ去るものについての文化が支配するこの世界で、どうしたら決定的な選択を行なうことができるのだろうかと尋ねた。教皇は、決定的な選択とは牢ではなく「革命的な行為」であって、キリストに対する信仰と信頼と信頼性とともに行なうなら、神の助けによって、発見すべき新しい道が開かれると指摘した。さらに、自身の召命経験について分かち合った。「主は決して私を一人きりにはされませんでした。主はつねに私とともにいて、ともに歩む人も与えてくださいました。こうして私は、司祭、聖アウグスチノ修道会会員、宣教者としての召命の中に、そして教皇になるというきわめて特別な招きにも『はい』といわなければならなかったときに至るまで、私を今日まで導いた光を見いだしました」

シチリアの小さな町パテルノ出身のユーフラ会員Luigiは、現代の多くの若者がたびたび口にする、「自分には信仰はあるが、教会への信仰はない」という言葉について質問した。教皇レオは、これに対して、「私の家を修復しなさい」と招く十字架につけられたかたを観想しながらキリストを再発見した、聖フランシスコ自身の体験について語った。「このつねに開かれた建設現場では、私たち一人ひとりに役割があります。私たちは異なる責務と召命をもっています。しかし私たちは、互いに力づけ、助け、正し合いながら、ともに歩みます。自分の役割を果たすことが大切です。そうすれば私たちは、母なるかたについて語るのと同じ愛情をもって教会について語れるようになります。なぜなら、自分が教会に属する者であることを認識するからです」教皇レオ14世は、バシリカの回廊内で十数名の兄弟たちにあいさつをした後、主の変容の祝日のミサを司式した。教皇は、説教のなかで、サンタ・マリア・デリ・アンジェリ

が、まずフランシスコにとって、次いでクララにとって変容の場となり、そこで彼らは「注釈なしで (sine glossa) ——いわば値引きすることなしに」福音を受け入れ、「イエスの生涯が彼らのうちで再び始まった」ことを強調した。

教皇は、この変容の光が、復活の朝の新たな日の光と同じものであることを指摘した。そして教皇レオは、若者たちが「ゴー！フランシスカン・ユース・ミーティング」で経験した出来事を想起しながら、こう述べた。「私たちはこの光を目指します。しかし、私たちの周りには、また時として私たちの中には、依然として闇が存在します。私たちは聖フランシスコや聖クララのような聖人たちのうちに、また、善をもって悪にこたえた無数の兄弟姉妹のうちに、その夜明けを見いだします。私たちは一人きりではありません。この数日間、皆様はこのことを体験しました」そして教皇は、まさにこのイベントのテーマに触れながら、すべての若者たちに向けて呼びかけた。「現代のヨーロッパと全世界は皆様のうちに新たな聖人を捜しています。勇気をもって福音のことばを信じ、イエス・キリストの自由によって人間らしい者となり、姉妹である貧しさを受け入れてください。この集会のテーマである「行きなさい」とは、派遣です。地図のない道を歩むようにという派遣です。心に耳を傾け、霊に従順に聞き従い、復活した主が私たちに先立って歩もうと望まれた地を歩むことによって、その道は開かれるからです。『行きなさい』、いやむしろ『行きましょう』少数の者の不正と横暴が、多くの人の、あまりに多くの神の子や娘たちの尊厳や夢を否定している社会の周縁へ」。そして「愛の文明のために献身してください。皆様は多くの無私の奉仕の模範のうちにそれが芽生えているのを目にしています。愛の文明は、キリストの姿に倣って今日も悲惨な死の情景の中でいのちに奉仕しようと努める無数の平和を実現する人々を変容させています」

最後の祝福の前に、Francesco Varoneという青年が、集会の参加者全員を代表して教皇の参加に感謝を表明し、世界中の若者たちのために祈ってくれるよう要請した。

教皇と若者たちとの対話

兄弟Marco Vianelli (OFM) のあいさつ

教皇レオ14世の説教を読む

ゴー！フランシスカン・ユース・ミーティング 宣教宣言

写真を見る [Flickr](#)

動画を見る [Youtube](#)

総本部の予定



- ☑ 9月7日から18日にかけて、総本部でテンポ・フォルテを開催予定。
- ☑ 総長の兄弟Massimo Fusarelliは、9月16日から17日まで、聖痕の祝日のため、ラ・ヴェルナを訪問予定。9月17日には、ローマで聖地の若者たちと会う予定。9月21日から23日まで、モロッコの聖初期殉教者分管区の分管区会議のため、モロッコを訪問予定。
- ☑ 総理事の兄弟Cesare Vaianiは、9月11日から12日まで、スペインのマドリッドで開催されることになっているスペインとポルトガルの4管区理事会会合に参加予定。
- ☑ 修道女総補佐の兄弟Fabio Cesar Gomesは、9月14日から18日まで、無原罪の御宿り会の創立者聖ベアトリス・ダ・シルヴァ列聖50周年を祝うため、スペインのトレドを訪問予定。
- ☑ 総理事の兄弟Konrad Cholewaは、9月18日から19日まで、ボスニア・ヘルツェゴビナのサラエボにおいて、聖ヒエロニムス諸管区協議会の誓願10年未満の兄弟たち(アンダー・テン)の会合に参加予定。

Government of the Order



総長、クロアチアを訪問 「聖なる贖い主管区」の兄弟たちと交流

2026年8月13日



WWW.OFM.ORG

2026年8月13日、総長の兄弟Massimo Fusarelli, OFMはSinjの聖地で開催される聖母被昇天の祝日のため、クロアチアの「聖なる贖い主管区」を訪問した。Splitにある管区本部にて兄弟たちと面会した後、翌日聖地へと向かった。

Sinjにおいて、総長は聖母被昇天の前夜ミサを司式した。祝日当日には、Splitの大司教が司式するミサおよび少なくとも10万人の人々を引き寄せた行列に参加した。また、ゆるしの秘跡や典礼奉仕にあたる兄弟たちをねぎらい、有期誓願の兄弟たちと歓談した。

続いて、志願院のあるImotskiの修道院を訪れ、現地の兄弟や4名の志願者と面会し



た。Vinjaniの小教区で行われた。St. Rochの祝日ミサに参加し、在世会 (OFS) の会員たちと聖フランシスコ帰天800周年について意見を交わした。

その後、Omišの修道院を訪問した。訪問の数日前、Omišは壊滅的な山火事に襲われており、総長は火災で自宅を失った2つの家族を訪ねた。修道院と兄弟たちは無事であったものの、環境の破壊と人々の

苦しみは依然として痛々しく残っていた。火災は放火によるものと報じられている。

管区長の兄弟Siniša Bala-
jić, OFMの同行のもと、総長は
同管区の「祈りの家」である

Karinの修道院へ移動し、数日
間の静養と祈りの時間を過ご
した。訪問の最後には、病気
の兄弟や、Trstenikの修道院
の教授および学生たちと面会
した。

訪問の最後に総長は、温かい
歓迎と家庭的な精神、そして
高齢の兄弟をはじめとする全
兄弟たちの献身に対して感謝
の意を表明した。

「聖フランシスコ・ファウンデーション」の 兄弟たちの会合

ローマ総本部、2026年8月7～9日



www.ofm.org



聖フランシスコ帰天800周年にあたる2026年8月7日から9日にかけて、ローマの 小さき兄弟会の (OFM) 総本部において、総長の兄弟Massimo Fusarelli OFMの司会、総理事の兄弟Konrad Cholewa, OFMの補佐のもと、ロシア連邦で教会と修道会に奉仕する「聖フランシスコ・コファウンデーション」の兄弟たちによる会合が開催された。(現地参加5名、オンライン参加2名)

兄弟たちは「エマオへ向かう弟子たち」のアイコンのもとに集い、失望から希望へと向かう弟子たちの旅路が、現在の重荷から新しい始まりへの移行を照らすよう祈りを捧げた。

また「嵐を静める」福音書の記述も兄弟たちを支えた。過酷な土地で少人数で奉仕する疲労や厳しい情勢を隠すことなく共有しつつも、主が共に歩み、心を燃え立たせてくださるという事実に見出した。

この黙想に基づき、兄弟たちはロシアにおける自らの存在意義と選択を再確認した。兄弟的交わりの質の向上、Novosibirskの「主の降誕」学校での奉仕、Saint PetersburgやNovosibirskの小教区・神学校での牧務の継続、カトリックの若者の召命育成、そして貧しい人々への新しい支援方法の模索などを重点課題として掲げた。

「エマオへ向かう二人の弟子のように、私たちも立ち上がり、再び歩み始める。ロシアの地で教会と修道会に奉仕したいという望みが、他の兄弟の中にも芽生えることを願っている。兄弟たち、考え直してほしい。私たちにはあなたがたが必要だ」と呼びかけた。

May the Lord keep us in His peace.

The Friars of the San Francesco Foundation

兄弟マッシモの視点（2026年8月）

聖霊がいのちを生み出し続けるところ



WWW.OFH.ORG

今年2月、私はカンボジアで、社会制度によって共同の食卓に招かれない人たちに食事を提供しました。それらの人々は、離れた場所、端の方において、他の人たちが食べ終わるのを待っていました。私が食べる物を差し出すと、私たちの視線が交わりました。言葉は交われませんでした。しかし、それで十分でした。この最小限の行動——一皿の食事、まなざし——のなかに、私はあるものを感じ取りました。それは、言葉よりも前に、このようにすべてに先立って告げられる福音です。そのカンボジアの教会は、破壊と再生を経験しました。クメール・ルージュが支配する時代に、司教、司祭、修道者、信徒たちが殺害され、教会は破壊されました。いま、その共同体は、現地のカテキスタたちと、一世代かけて再建された信仰に導かれて、生まれ変わりました。まるで『使徒言行録』のようです。小さいけれども生き生きとしたいくつもの共同体が、無限に光を放っています。



リタンになることではなく、自分自身に問いかけることです。異なる言語、異なる教会、異なるフランシスカンの様式は、私たちが自分の召命を見つめる視野を広げてくれるかもしれません。落ち着きのなさに身を委ねること自体が、一つの始まりです。

アジアでの総集会開催は、新たな窓を開くことを意味します。私たちが集まって、誰が修道会を導くかをともに識別することは、私たちが育ってきた地平の外側では、また違った感覚をもつでしょう。多くの宗教が存在するなか教会が活動するところでは、私たちの時代の核心的な課題である福音宣教は、新たな姿を見せてくれます。そしておそらく、アジアの次にアフリカが来るでしょう。最近行なったいくつかの訪問から、そのように感じています。私は、クロアチアでこれを書いています。目の前には、干ばつによって流量が3分の1に減ってしまった滝があります。水が不足しています。これは、変化する時代を示す多くのしるしの一つです。

これは決して、孤立した事例ではありません。私は1月に、パキスタンの貧しい辺境で、イスラームの地では少数派であるキリスト信者たちのもとでミサを祝いました。そこでは、信仰は日々代償を伴う選択です。危険にさらされ、何の保証もありません。それでも、私は緊張のただ中で、私に問いを投げかけるような喜びを見いだしました。人々は歌い、祈り、もてるわずかなものを差し出して私を迎えてくれました。パプアニューギニアでは、とても貧しい信徒たちにとって、信仰は希望そのものです。韓国では、より組織化された教会が、世代交代という課題に直面しています。アジアは、まるで実験室のようです。

2027年、私たちはこの大陸で、総集会を開催します。アジアでの開催は初めてです。多くの人が、なぜヴェトナムで開くのかと尋ねます。驚きや、時には気候や遠さや違いに対する恐れからです。しかし、その問い自体がすでに実りなのです。通常で開催地では、このような問いは生まれなかったでしょう。

私たちは、とりわけ歴史の古い管区においては、既存の枠組みのなかで兄弟性を考えてしまいがちです。異文化の経験をもたない人は、自分自身の殻から外に出て、一步を踏み出すことがなかなかできません。大切なのは、コスモポ

そしていま、いのちの水はどこを流れているのか、そして私たちがその場所を認識できるのか、と自問しています。おそらくこれこそが、ヴェトナムで総集会を開催する意味なのでしょう。大切なのは、ただ決定するだけでなく、聖霊がどこでいのちを生み出し続けているかに気づくことなのです。



St. Beatrice de Silvaの祝日に際する総長の手紙
手紙を読む: [Italiano](#) - [Español](#) - [Português](#)

いまでもアジアで続くフランシスコのイースター 「よき知らせ」となる呼びかけ


WWW.OFM.ORG


フィリピン、ヴェトナム、ミャンマー出身の東アジア諸管区協議会共同統合プログラムの代表たちは、2026年8月14日、ヴェトナムのホーチミン市において、アジア・オセアニア地域担当の総理事の兄弟 John Wong, OFMとともに、祈りと省察と兄弟性の会合の意義深いひとときを過ごした。

この日は、兄弟 John Wong が司式するミサで始まった。兄弟 John は、説教のなかで、優しさといつくしみに満ち、罪人であるにもかかわらず自分を愛してくださる神を発見した、聖フランシスコの経験に

ついて省察するよう招いた。この経験は、フランシスコの自分自身や他者に対する見方を変えた。人は、罪人でありながら、神に深く愛されているのである。兄弟 John は、聖マクシミリアン・コルベのあかしに触れて、兄弟たちにこう強く勧めた。「私たちは、福音を『よき知らせ』として聞くためだけに召されているわけではありません。私たちは、『よき知らせ』そのものとなるよう呼びかけられています…。単に御聖体を拝領するだけでなく、すべての人々のための交わりのしるしとしてこれを生きるよう求められ

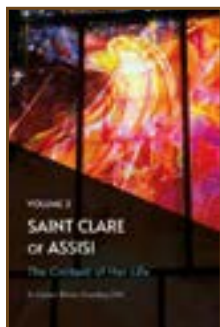
ているのです」。

その後、兄弟 John は、「聖フランシスコの帰天：福音への忠実、喜びに満ちた兄弟性、そしてアジアという文脈における宣教」というテーマで講演を行なった。フランシスコの帰天を、現在も続く過越の歩みとして提示したのである。それは、恐れから信頼へ、苦しみから喜びへ、孤立から兄弟性へ、そして自己中心主義から完全なる自己贈与への歩みである。

そして、アジアの現実と課題について考察しながら、若い兄弟たちに、キリストに根ざし、すべての人の兄弟となり人々と被造物に寄り添い、希望の証人となるよう招いた。

フランシスカン家族が聖フランシスコの帰天800周年（1226-2026年）を祝うなか、この会合は、フランシスコの帰天が私たちのなかで継続しており、ただ「よき知らせ」を説くだけでなく、自分自身がアジアの人々にとって「よき知らせ」そのものになる必要があるということをはっきりと招くものとなった。

Franciscan Bookmark

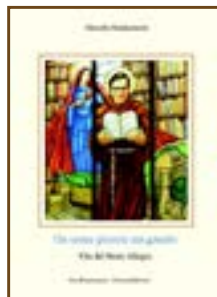


Saint Clare of Assisi

The Context of Her Life, Vol. 2

Sr. Frances Teresa Downing, OSC

Franciscan Publishing



Un uomo piccolo ma grande

Vita del Beato Allegra

Marcello Badalamenti, OFM

Kromato Edizioni

ブラジル無原罪の御宿り管区、 「幕屋の集会」を開催 創立350周年にあたり



www.ofm.org

2026年8月3日から6日にかけて、ブラジルの無原罪の聖母管区は、サンパウロ州アグドスにあるサント・アントニオ修道院にて「幕屋の集会 (Chapter of Mats)」を開催しました。この集いには、管区長の兄弟 Paulo Roberto Pereira, OFMや総理事の兄弟 César Kulkamp, OFMをはじめ、兄弟、フランシスカン家族の男女修道者、信徒、召命の識別中の方々、志願者、修練者、養成の各段階にある兄弟たち、管区の協力者など、約200名が参加しました。幕屋の集会のテーマは「死ぬことのない愛 (The Love That Does Not Die)」であり、アシジの聖フランシスコのご帰天（遷化）800周年記念と調和を図りつつ、管区設立350周年の祝宴の一環として開催された。この集いは、管区の歴史を振り返り、現代のフランシスカンのインキュベーター的生活の課題を識別し、与えられたカリスマへの約束を新たにすることになった。

この集いは、交わりとフランシスコ会的アイデンティティの刷新というテーマのもとで行われた。藁のむしろ（マット）の上に集まった初期の兄弟たちの集会という伝統に着想を得たこのイベントは、歴史を振り返り、宣教の新たな道を識別するよう共同体を招くものだった。4日間にわたり、参加者は共同の祈り、典礼（聖体礼儀・ミサ）、養成のひとつとき、そして、フランシスカン家族のさまざまな召命の対話の機会を特徴とするプログラムに参加した。これらの活動を通じ、管区の350周年は、現在の宣教を活気づけるだけでなく、将来のフランシスコ会兄弟たちのための道を切り開く「生きている遺産」として提示された。集いから生まれた省察は、教会や現代社会が直面する課題に管区が応え続けるための道筋として、兄弟性と謙遜な奉仕 (minority) の重要性を強調した。

オープニングプログラムでは、アシジの貧しき人の帰天800周年を記念して準備された、アシジの聖フランシスコの遷化式が執り行われました。「死ぬことのない愛」というテーマに触発されたこの典礼は、管区長によって司式されました。祝いの最中、サン・ダミアノの十字架、福音書、聖フランシスコの修道服、草のむしろといったフランシスカンの霊性の象徴が、セラフィムの師父聖フランシスコが遺した遺産を呼び覚ますのに役立ちまし

た。「私たちが兄弟愛の根本的なあり方を体験できるように。幕屋の集会は、聖フランシスコの言葉を現代において具体化し、福音を生きる喜びを新たにすることになった。過去に兄弟たちを導いたものと同じ聖霊が、今日も私たちの宣教の源であり続けています」と管区長は集会の中で省察を述べた。

ハイライトの中には、「夢から永遠へ」と題された記念ルートの一環であるサント・アントニオ修道院の墓地への巡礼や、この機会に寄せられた小さき兄弟会の総長の兄弟 Massimo Fusarelliからのメッセージが含まれていた。



また、兄弟 Bruno de Mello の荘厳誓願式、2027年に予定されている総会の準備、そして金祝・銀祝などを迎える兄弟たちのフランシスカン的生活の見事な証しとなった閉会式も行われた。

管区長は、「この350年という歩みが、正義に触発された福音化の取り組みに対して、私たちがよりいっそう敏感にさせてくれますように。『貧しい人々こそが私たちの教師である』という確信を、私たちのうちに再び呼び覚ましてくれますように。フランシスコがこれからも私たちを鼓舞し、兄弟愛という情熱的なユートピアを追求するよう常に招いてくれますように。事故や困難にあっても、私たちの『はい』という応答を実り豊かなものにしてくださいますように」と語った。



Franciscan Centenaries

フランシスコの愛を示す

インドのネサナガル地区の住民とともに祝う帰天800周年



WWW.OPM.ORG



インドのフランシスカン家族は、アシジの聖フランシスコの帰天800周年を記念して、兄弟姉妹たち、とりわけもっとも貧しく弱い立場にある人たちに対する愛を示したいと望んだ。2026年8月23日、この精神に基づき、インド東部のタミル・ナードゥ州アティペットのネサナガル地区の住民に対する連帯の行動を通して、素朴ながらも意義深いかたちで、聖フランシスコの帰天800周年を記念した。この地区には、先住民コミュニティに属する43ほどの家族が住んでいる。

インドの小さき兄弟会は、貧しい人々や困窮者の支援にあたる非政府組織「ネサッカラム (Nesakkaram)」を通して、長年にわたってネサナガルのコミュニティに同伴してきた。兄弟たちは、2009年から、地区住民の社会的・教育的ニーズや生活必需品へのニーズに応え続け、人々の生活の質の向上と、より尊厳ある生活環境の実現に尽力している。この同伴は、ネサッカラムの代表である兄弟Eugeneの指導と調整のもと、兄弟たちや同組織のスタッフとともに、活動と配慮と連帯の持続的な奉仕職として続けられている。この取り組みは、ネサナガルの家族のために22戸の住宅を建設することから始まり、その後、子どもたちの学習支援や、困難な状況に生きる家族への継続的な支援など、数多くの他の取り組みに発展してきた。

ネサッカラムは、フランシスコ年を祝う今年、あらためて家庭を支援し、生活必需品を配布した。ほとんどの家庭は、臨時的な仕事で生計を立てており、日常生活の必要を満たすうえで経済的な困難に直面している。提供された支援は、ささやかなものではあったが、必需品さえも大きな負担となり得るこの時代に、具体的な支えとなった。とくにこの支援は、コミュニティに対する友情と連帯の具体的なしるしとなった。

この祝祭では、ネサナガルの若者たちによるバレーボールの親善試合も予定されていた。聖セバスティアン小教区の若者たちがゲストチームとして参加し、友情と熱意と分かち合いの喜びの雰囲気を作り出すことに貢献した。ネサナガルの若者たちは、熱心にスポーツの腕前を披露した。その一方で、この取り組みは、二つのグループに出会い、一緒にプレーし、兄弟的な関係を築く機会をもたらした。

ネサッカラムは、ネサナガルの若者たちのために、さらなるプログラムを実行したいと考えている。そのなかには、汎用的なスキルを身につけるための養成や、若者たちが自分の能力を伸ばし、仕事を見つけ、家庭を支えるのに役立つ機会の提供も含まれている。さらにこの組織は、教育の歩みを助け、よりよい

未来を築くよう励ましながら、補完的な学習支援プログラムを通して、コミュニティの子どもたちに同伴し続けている。ネサナガルでの会合は、聖フランシスコの帰天を記念するための、素朴でありながらも意義深い方法であった。インドにおけるフランシスカンの活

動は、分かち合い、同伴、教育、友情、そして奉仕を通して、いまもなお困窮する人々に手を差し伸べ続ける。こうして、貧しい人々を受け入れて、兄弟姉妹たちのうちにキリストを見いだすことを選んだ聖人の精神を、生き生きと保ち続けている。

マダガスカルの聖フランシスコ800周年の記念 聖フランシスコの聖遺物の巡礼



WWW.OFM.ORG



聖人の聖遺物がマダガスカルに到着したことへの喜びを語った。「2023年から続いてきたフランシスカン800周年は、今年2026年に幕を閉じます。聖遺物の到着は フランシスカン・ファミリーおよびすべての信徒にとって恵みです。このお祝いと巡礼が私たち全員に霊的な恵みをもたらしますように」。

CIFM には、小さき兄弟会 (OFM) 、カプチンのフランシスコ会 (OFM Cap) 、クララ会 (OSC) 、在世会 (OFS) 、マリアの宣教者フランシスコ修道会 (FMM) 、マリアの小さきフランシスカン、パラガーノの無原罪の御宿りフランシスコ姉妹会、聖母の宣教フランシスコ修道女会、祝福されたアンジェリーナのフランシスコ第三修道女会、ブロワのマリアのフランシスコ修道女会、ご聖体の宣教クララ会、カプチン修道女会などが参加している。

マダガスカルのフランシスカン・ファミリーは聖フランシスコの800周年を祝っており、その頂点として、マダガスカルのフランシスカン協議会 (CIFM) はアシジの聖フランシスコの聖遺物の巡礼を企画した。2026年7月16日から8月2日までにわたり、聖遺物は同国の中部、東部、北西部の6つの教区を巡り、アシジの許しの祝日にあたる8月2日、Ambanja教区のAnkaramibeにて巡礼の旅を結んだ。

各寄港地では、大勢の信徒が参加した。司祭、修道者、在世会の会員、そしてカプチンのフランシスコ会、クララ修道院、多様な女子修道会のフランシスカン、ウルスラ会などの修道共同体が集い、ミサ、前夜祭、崇敬のひとつときを共にした。お祝いの儀式は司教、枢機卿、修道会上長らの司式により執り行われ、修道院や修道会内部での祈りの集いは深められた黙想の時間を提供した。

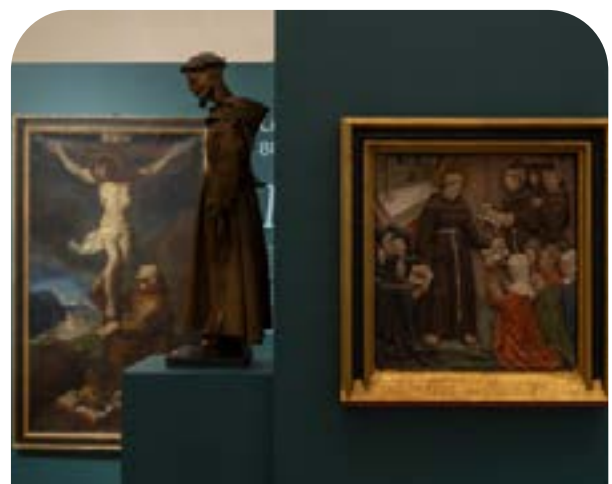
8月2日には、管区長が司式するフランシスカンの行進と感謝の閉会ミサが行われ、感謝の雰囲気の中で巡礼行程が完了した。Antsirabeのカテドラルで行われたミサにおいて、兄弟 Jean-Pierre Rasolonjanahary, OFMは、偉大な

The Art of Living. 800 Years of St Francis of Assisi

Exhibition at the Salzburg Cathedral Museum



WWW.OFM.ORG



For more information:
www.domquartier.at

メキシコ聖福音管区、管区会議開催

2026年7月20～28日



WWW.OFM.ORG



2026年7月20日から28日にかけて、メキシコの聖福音管区の兄弟たちは、Mexico CityのSanta Úrsula Coapaにある有期誓願兄弟の養成所において管区会議を開催した。

兄弟Cristóbal de Jesús Díaz Martínez, OFM議長のもと執り行われた管区会議は、祈り、識別、そして兄弟的交わりの特別なひとときとなった。期間中、黙想会、報告書の発表、グループワーク、兄弟的な対話が行われ、管区の歩みを振り返るとともに、今後の生活と宣教の指針となる合意が形成された。

最大の焦点の一つは、福音的かつフランシスカンの精神をもって兄弟たちに奉仕し、管区の生活を再興させる新たな管区行政の奉仕者たちの選出であった。

新管区長には兄弟Pascual Núñez Santiago, OFMが、副管区長には兄弟Miguel Ángel Berrocali Álvarez, OFMがそれぞれ選出された。

また、管区理事には以下の5名が選出された：

・兄弟José Luis Honorato Munguía Rodrí-

guez, OFM

・兄弟Víctor Pérez Reyes, OFM

・兄弟Luis Daniel Martínez González, OFM

・兄弟Serafín Mendoza Álvarez, OFM

・兄弟Sergio Aguirre Benítez, OFM

共に過ごした日々、重ねられた識別、授けられた恩恵に対して神に感謝を捧げ、管区会議は終了した。これまでの歩みに対する感謝の意とともに、主が今後も管区の生活と宣教を導いてくださるとの信頼を寄せつつ、未来への希望が表明された。

新管区行政の奉仕者たちと今回決められた合意事項が、兄弟的交わりを強め、召命を刷新し、宣教の課題に忠実に直面する推進力となるよう、主への祈りが捧げられた。

報告：管区会議の広報委員長、兄弟Ricardo Maldonado Castillo, OFM)

Animation of the Order



兄弟Taucen、南アフリカ 「平和の元后聖母管区」を訪問

2026年8月23～28日



WWW.OFM.ORG



2026年8月23日から28日にかけて、ローマの総本部JPIC事務局から兄弟Taucen Hotlan Girsang, OFMが南アフリカのJohannesburg周辺にある複数のフランシスカン共同体 (Vanderbijlpark, Boksburg, Pretoriaなど) を訪問した。また、マリアの宣教者フランシスコ修道会 (FMM) の シスターたちが活動するEldorado Parkも訪れた。訪問の目的は、兄弟や FMM シスターたちの声に耳を傾け、彼らがフランシスカンとしての宣教活動を行う社会的現実を把握するとともに、JPIC に関連する司牧活動への理解を深めることであった。

兄弟Taucenは、Vanderbijlparkにある管区本部修道院にて、アフリカ担当総理事の兄弟Siphelele Gwanisheni, OFMおよび平和の元后聖母管区の管区長である兄弟Ndumiso Khumalo, OFM による歓迎を受けた。この地域で兄弟たちは少なくとも3つの小教区で奉仕にあたり、黒人、カラード（混血）、白人といった人種による隔たりは見られない。近隣には聖ボナヴェントゥラ・スキルズセンターがあり、兄弟たちはチームとともに農業、木工、家具製造に関心のある学生へ訓練を提供している。また、霊的なオアシスとして機能する黙想の家 La Verna も併設されている。ここでは、牧務活動、能力開発、霊的刷新をフランシスカンの精神と生活様式に統合するという、兄弟たちが長年にわたり育んできた広い視野を実感することができる。

ないものの、地域の複数の学校で活動するFMMのシスターたちの奉仕を通じてフランシスカンの現存が保たれている。シスターたちによると、同地域の多くの家庭が置かれた社会的状況は極めて深刻である。ひとり親家庭の増大、薬物中毒、犯罪問題、そして富裕層と貧困層の間における著しい格差に直面している。FMM共同体の近くには、かつてApartheid（人種隔離）体制に対する闘争や解放運動において重要な役割を果たしたマンデラ・ハウスや Regina Mundi Cathedralが存在する。人種隔離からは解放されたものの、経済的不平等という「新たな形の隔離」が生じている現状が浮き彫りとなっている。過去の分断は完全に消失したわけではなく、リソースや機会の有無による格差として形を変え、人々の生活に影を落としている。

その後、訪問は Pretoriaへと続いた。兄弟Taucenと兄弟Sipheleleは、学生が神学や哲学を学ぶ神学校、大司教館、司教協議会館、そして兄弟が奉仕する小教区を訪問した。RietvalleirandのKort Streetにある共同体は、かつて養成所として使用されていたが、現在は志願院、図書館、ゲストハウスとして活用されているほか、名誉大司教の兄弟William Slattey, OFMをはじめとする引退した兄弟たちの住居としても機能している。

一方、Eldorado Parkには兄弟たちの拠点は

続きを読む www.ofm.org

養成、学問事務局の 国際会議開催 2026年7月14～18日



WWW.OFM.ORG



2026年7月14日から18日にかけて、各OFMの各地区協議会の養成、学問担当の事務局長で構成される 国際養成、学問事務局の会議がローマの総本部にて開催された。

会議では、各事務局から生涯養成および初期養成の双方における各協議会の取り組みや経験が共有された。また、総本部の養成、学問総事務局が2025年1月以降、全 管区へ送付している「養成者への手紙」の受け止めについても議論が交わされた。

さらに、OFM宣教大のファウンデーションの兄弟たちにより、修道会内の養成支援を目的とした同ファウンデーションの各種プロジェクトが発表された。

総長である 兄弟Massimo Fusarelli, OFMとの会談において、総長は現代におけるキリストの追従と養成について思索を展開し、すべての養成の歩みの指針となるべき問いを提示した：「主は今日、私たちの修道会にどのような『兄弟』を求められているのか？」

この会議の中心的部分は、次回の総会に向けた『養成と学問に関する作業文書 (Instrumentum laboris)』に関する作業に充てられ、特に『フランシスコ会養成方法 (Ratio Formationis Franciscanae)』の改訂準備に

重点が置かれていた。

有期誓願兄弟の 養成担当者への手紙 養成、学問に関する第7通目の手紙



手紙のダウンロード:

[Italiano](#) - [English](#) - [Español](#)

LIFE in the Order



莊嚴誓願

8月22日、グアダルーペの聖母管区 (アメリカ合衆国)

兄弟Tyler Grudi
兄弟Kevin Hamzik
兄弟Domingo Martinez
兄弟Phillip McCarter
兄弟Brian Menezes
兄弟Joan Perez
兄弟Carlos Neri Portillo Melendez
兄弟Nathaniel Tran

8月16日、聖フランシスコ・ソラノ管区 (ペルー)
兄弟Luis Rafael Caycho Zelada
兄弟Hassler Osmin Pineda Gonzalez

8月9日、聖クララ管区 (モザンビーク)

兄弟Avezedo Vasco Damião Damião
兄弟Daniel Alfredo Fulgêncio Fulgêncio
兄弟Marchande Fernando João
兄弟Leonardo Mutolino Moniua Moniua

8月5日、無原罪の御宿り管区 (ブラジル)

兄弟Bruno de Mello

8月2日、諸天使の聖マリア管区 (コンゴ民主共和国)

兄弟Constantin Bunkolele Muambayi
兄弟Olivier Ciany Mukuna
兄弟François Mbombo Lumpungu
兄弟Sébastien Ngandu Bukasa

7月10日、イエスのみこころ分管区 (ブラジル)

兄弟Cristiano Nobre de Oliveira



司祭叙階

8月30日、聖地特別分管区
兄弟Maikel Anjelo

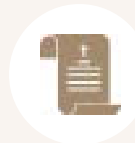
8月21日、グアダルーペの聖母管区 (アメリカ)
兄弟Maikel Eduardo Gómez Pérez
兄弟Joshua Richter

8月3日および11日、使徒聖トマス管区 (インド)
兄弟Gali Bal Reddy Reddy
兄弟Abhishek Mariaswamy

8月2日、キベホの聖母分管区 (ルワンダーブルンジ)
兄弟Janvier Izabayo
兄弟Gaspard Nkundimana

6月29日、聖母被昇天管区 (ボスニア・ヘルツェゴビナ)
兄弟Jakov Jure Nikolić
兄弟Ante Radoš
兄弟Danijel Sentić
兄弟David Slišković

6月28日、聖クララ管区 (モザンビーク)
兄弟Feliz Elias Assane
兄弟Jeremias Felipe Benedito
兄弟Itélio Costa Francisco Chale
兄弟Raimundo José Mateus Mateus
兄弟Orlando Augusto Nhachengo
兄弟Orácio Francisco Pacule Pacule



帰天された兄弟たち

+8月22日：兄弟Joaquim Cerqueira Gonçalves、モロッコの聖初期殉教者管区 (ポルトガル)

+8月19日：兄弟Gerald (Antonius) Wördekemper、聖エリザベト管区 (ドイツ)

+8月14日：兄弟Ante Leko、聖母被昇天管区 (ボスニア・ヘルツェゴビナ)

+8月13日：兄弟Placido (Pietro) Pozzobon、聖アントニウス管区 (イタリア)

+8月12日：兄弟Flaviano (Antonio Giuseppe) Andreoletti、聖アントニウス管区 (イタリア)

+8月7日：兄弟Hyacinthus (Piet) Lemmers、ゴルクムの聖殉教者管区 (オランダ)

+8月4日：兄弟Giovanni Cazzola、小さき兄弟会聖アントニウス管区 (イタリア)

+7月30日：兄弟Joseph (Joseph Alfred) Ricchini、グアダルーペの聖母管区 (アメリカ)

総事務局からの情報

世界の OFM



第15回 EAC Integration Programme



アメリカ(ガダルーペの聖母管区)
荘厳誓願式および司祭叙階式。



クロアチア
9名の志願者を受け入れ。



フィリピン・セブ
修道院長のための生涯養成実施



アメリカ(無原罪の御宿り管区)
アンダーテンの集いを開催



ペルー(聖フランシスコ・ソラナス管区)
荘厳誓願式



ポーランド(諸天使の聖マリア管区)
KrakowからJasna Góraへの巡礼を実施



インドネシア(大天使聖ミカエル管区)
荘厳誓願式



フィリピン・ケソン市
第1回フランシスカン広報担当者の会議を開催



ポーランド(天使たちの聖マリア管区)
保護聖人の祝日を祝う



ベトナム、第15回東アジア諸管区協議会の
Common Integration Program (EAC-CIP) 開幕



クロアチア・メドヴォルジェ
第37回若者たちのフェスタを開催



DRC
許しの巡礼を実施



インド、アジア・フランシスカン・ファミリー
第1回ミッションシンポジウムを開催



イタリア、ターラント、
サマースクール第3版“Mediterranean Weaves”



在セフランシスカン 第二回全アフリカ大会

2026年8月21日から27日まで



www.ofm.org



最近教会法に基づき設立されたばかりのウガンダの在セフランシスカン全国兄弟会は、2026年8月21日から27日にかけて行なわれた在セフランシスカン第二回全アフリカ大会と、その直後の2026年8月28日から31日にかけて行なわれた全国選挙会議の開催地となるという大きな名誉と特権にあずかった。

この兄弟的な会合の恵みに対し、心から神に感謝するとともに、エボラウイルスの絶え間ない脅威にもかかわらず、勇気と献身、そして忍耐をもってこの大会を実現をこぎつけてくれた

主催者たちに深い感謝をささげたい。その忍耐は、兄弟性、希望、神のみ摂理への信頼というフランシスカン的な精神を美しくあかししている。この大会には、アフリカ全土の各国の全国兄弟会から、在セフランシスカンの兄弟姉妹たち計91名が集まった。英語圏、フランス語圏、ポルトガル語圏の各地域を見事に代表していた。代表者たちの出身国は、カメルーン、エリトリア、ギニアビサウ、ケニア、マラウイ、モザンビーク、トーゴ、タンザニア、南アフリカ、ウガンダ、ザンビア、ジンバブエなどであった。このような言語、文化、経験の多様性は、私たちの兄弟的な交わりを豊かにし、異なる国や伝統に属していても、私たちは一つのフランシスカン家族であり、アシジの聖フランシスコの模範に従って福音を生きるよう召されていることをあらためて思い起こさせてくれた。大会のテーマは、「平和の働き手となりなさい」であった。大会期間中、私たちはアフリカにおける在セフランシスカンの活動と宣教にとって重要なさまざまなテーマについて考察した。

続きを読む www.ofm.org

ウガンダの在セフランシスコ会、全国選挙総会

2026年8月28日～31日



www.ofm.org

ウガンダの在セフランシスコ会（OFS）全国総会は、全アフリカ会議の閉幕直後となる2026年8月28日から31日にかけて、ガンバのゴゴンヤ＝キスビ・エンタープライズ内にあるウイリカ・ゲストハウスにて全国選挙総会を開催した。本選挙総会は、最高評議員のEmerenciana Chiyama, OFSの司会のもとで行われた。喜びと兄弟愛に満ちた雰囲気の中、11名の総会代議員が祈りと兄弟的交わり、識別の精神をもって集い、新たな全国協議会役員を選出を行った。

選挙の結果、Frederick Kanyike, OFSが新全国会長、兼国際評議員として選出された。

総会の霊的補佐は、ウガンダの全国・地区・各兄弟会の霊的補佐たちの惜しめない協力と精力的な奉仕に対して、心からの感謝を表明した。霊的補佐たちの忠実な伴走により、在セフランシスコ会の兄弟姉妹がフランシスコ的カリスマに根ざし続け、共同体の中で福音を生き、ウガンダの地方教会における自らの責任と使命をより豊かに深められるよう励まされた。

選挙総会の締めくくりには感謝のミサが捧げられ、新しく選出された全国協議会役員の任命式が執り行われた。このミサは兄弟Gidion Nucagaba Twongiriewe, OFMの主司式により執り行われた。

今回の選挙総会は、穏やかで祈りに満ちた、深い兄弟愛の精神に貫かれた集いとなった。



Pro Monialibus

エルサルバドルにおける 40年にわたる観想的な生活

フランシスカン家族が再び聖クララの貧しき姉妹たちの周りに集う



WWW.OFM.ORG



エルサルバドルの
観想的な生活と、アシジの聖クララのカリスマへの忠実に対し、主に感謝をささげた。

この共同体の歴史は、まさに1986年8月22日に、グアテマラの聖クララ修道院出身の最初の創立の姉妹たちがエルサルバドルに到着したことから始まる。この姉妹たちは、クララ会の生活様式に固有の価値、すなわち具体的なかたちを帯びた祈り、至高の貧しさ、姉妹愛を生き、あかししたいという願いを胸に抱いていた。

40年後、この祝いの機会に、再びフランシスカン家族は姉妹たちの周りに集まった。式典には、在世フランシスカンの兄弟姉妹たち、ロス・プラネス共同体のメンバー、母修道院

であるグアテマラのプエルタ・パラダの聖クララ修道院のクララ会員たち、さらにはコスタリカ、パナマ、プエルトリコの各修道院から集まった連合所属の姉妹たちが参加した。

感謝の荘厳ミサは、グアテマラのグアダルupesの聖母管区の管区長の兄弟Edgardo Manuel Pérez Tejeira, OFMが司式し、何人かの司祭である兄弟たちが共同司式した。また、クララ会の教皇補佐の兄弟Efrén Antonio Bolaños de Paz, OFMも参加した。

この祝いは、たどってきた歩みを感謝のうちに振り返ると同時に、希望を新たにすることができた。聖ダミアノ修道院の共同体は、創立当初から、アシジのフランシスコとクララの霊性を生き生きと保ちながら、人々の間で、祈りと姉妹愛の素朴な生活を続けるよう努めてきた。

姉妹たちは、この40年間の恵みを祝うなかで、その歴史に同伴してきた多くの兄弟たち、姉妹たち、恩人たちに感謝しつつ、神に完全にささげられた生活の静かで実り豊かなあかしを、教会と世界に引き続き示していきたいという願いを新たにしながら、自らの召命と使命を主に委ね続けている。

管区事務局長
兄弟Edgar Daniel Coyoy Medrano, OFM



2026年被造物の季節 「いのちの水」、9月1～10月4日


WWW.OFH.ORG


SEASON OF CREATION - TEMPO DEL CREATO - TIEMPO DE LA CREACIÓN 2026



9月1日から10月4日まで、さまざまな宗派のキリスト信者たちが被造物の季節を祝う。これは、被造物の叫びと一緒に応えながら、祈り、観想、共通の家の保全にささげられる時期である。

今年、エキュメニカルな家族は、「いのちの水」というテーマのもとに集まる。そのシンボルマークは「いのちの水に浸されて」で、預言者エゼキエルの言葉から着想を得ている。「川が流れてゆく所、生き物の群れはすべて生気に溢れ、おびたしい魚が繁殖するようになる。この水が流れ込むと浄化され、この川が流れ込む所では、すべてが生気に溢れるからだ」（エゼキエル47・9）、「川辺では兩岸にあらゆる果樹が生長する。その葉は枯れず果実も絶えず、月ごとにみずみずしい実を結ぶ。それが聖所から流れ出る水だからである。その果実は食用に、その葉は薬用になる」（エゼキエル 47・12）。

2015年に教皇フランシスコによって制定され、カトリック教会が9月1日に祝う「被造物を大切にする世界祈願日」に向けて、教皇レオ14世は、「剣を打ち直して鋤とし、槍を打ち直して鎌とする」（イザヤ2・4）と題するメッセージを発表した。教皇は、さまざまな

危機と、山ほどの人間の苦しみ、そして調和のある被造界の均衡が失われていく勢いを、傷を負った世界から発せられた「いやしと平和を求める同じ一つの叫び」として、ともに読み解くよう招いている。とくに教皇は、戦争がもたらす傷が戦地の遠くかなたにまで及ぶことを強調した。それは、生態系を破壊し、空気や水のような生存に不可欠な資源を汚染し、食料安全保障を脅かし、貧困や格差、新たな社会的緊張を広げ、さらなる紛争の火種となる。

レオ14世によれば、その解決には、責任と、個人として共同体としての心の底からの回心が必要である。実際、平和は心のなかから始まって、私たちのかわりへ、共同体へ、そして被造物との関係へと流れ出ていく。これこそが、真のエコロジカルな回心の道である。要するに、壊すために用いられてきたものをいのちのための道具に変え、エネルギーや資源を人類の全人的な発展のために、貧困の克服のために、人間の尊厳の保護のために、和解のために、被造物の保全のために用いるのである。こうして教皇は、人類に託されている数々の「生態系」、すなわち被造界の生態系、人間関係の生態系、人間の心の生態系を守るよう招いた。

今年、被造物の季節の最終日の10月4日は、聖フランシスコの帰天800周年にあたる。この記念は、フランシスカン家族にとって、平和と回心と共通の家の保全の歩みとして被造物の季節を生きるようあらためて呼びかける機会となる。

詳細はこちら：

<https://seasonofcreation.org/>

ダウンロード [the guide to celebrations](#)

教皇のメッセージ [the message of Pope Leo XIV](#)

Emergencies



コロンビア緊急支援2026に対する 総長の呼びかけ 地震の被災者支援のための特別募金



総長の兄弟Massimo Fusarelli, OFMは、2026年8月10日にコロンビア西部を襲ったマグニチュード7.4の地震を受けて、8月11日のアシジの聖クララの祝日に、フランシスカン家族全体に向けて緊急の呼びかけを行なった。「使徒聖パウロ管区の管区長の兄弟Richard Paúl Cortés Lópezから、私に一枚の写真が送られてきました。高齢の女性が、自宅の板張りの床に置かれた段ボールのうえに座っています。家の屋根は落ちてしまっています。そばには水のボトルが置かれています。この女性はいま、私たちにとって、支援を必要とするコロンビアのシンボルです」。

総長は、本会のすべての共同体、クララ会修道院、そしてフランシスカン家族全体に対し、ミサや教会の祈りのなかで、コロンビアの死者、負傷者、被災者たち、そして彼らに奉仕する兄弟姉妹たちを思い起こすよう呼びかけた。

また、兄弟Massimoは、総本部の附属機関である小さき兄弟会フラテルニタス財団に対し、特別募金「コロンビア緊急支援2026」を立ち上げるよう指示した。寄せられた寄付金は全額、モンテネグロにあるクララ会の姉妹たちと志願者たちに対する水、食料、安全な住まいの提供、ブエナベントゥラ小教区の家庭に対する人道支援、危険な建物の安全対策、そして使徒聖パウロ使徒管区と聖信仰管区において被害を受けた教会、修道院、寄宿学校の修復にあてられる。

総長は、「神はいつも手を差し伸べてくださいます。そして多くの場合、私たちの手を通して、必要なものを整えてくださいます。貧

しい人たちの信頼を裏切ってはなりません」という言葉で手紙を結び、コロンビアの2つの管区からの呼びかけを自らの呼びかけとし、フランシスカン家族全体に祈りと寄付を呼びかけている。

呼びかけの全文は、

[available here in PDF.](#)

クレジットカードによる寄付は、次のリンクから:

<https://ofmfraternitas.org/en/2026/08/12/earthquake-emergency-in-colombia/>



インドネシア・フローレス島地震： 被災者に対する寄り添いと祈り

2026年8月15日



www.ofm.org

小さき兄弟会は、2026年8月15日土曜日の現地時間5時58分に発生したマグニチュード7.7の地震により甚大な被害を受けたインドネシアのフローレス島の住民に対し、心からの寄り添いと連帯の気持ちを表明する。

インドネシアの大天使聖ミカエル管区の管区長の兄弟Agustinus Lorensius Ngame, OFMから、総長の兄弟Massimo Fusarelli, OFMに宛てて送られた知らせによると、すべての兄弟たちは無事で、安全な場所にいる。しかし、兄弟たちに管理が任されているいくつかの教会は、地震により被害を受けた。

現時点では、被害の全体像に関する正確な情報はまだ得られていない。フローレス島で活動する大天使聖ミカエル管区の兄弟たちは、

引き続き状況把握に努めており、より信頼度の高い情報が得られ次第、あらためて報告してくれる予定である。

小さき兄弟会は、悲しみと不安に満ちたいま、地震の被害を受けたすべての人々やコミュニティ、とくに愛する人を失った人たちや、その影響に苦しんでいる家族に対し、心からの寄り添いと連帯を表明する。

私たちは、フランススカン家族全員に対し、亡くなった人たち、その家族、被災したすべての人たち、そしてこの地震によって試練に直面しているコミュニティのための祈りに加わるよう呼びかける。そして、この困難な時期を過ごしているすべての人々に慰めと力と希望が与えられるよう、主に願っている。



Subscribe

Write us

Web

Follow us



Newsletter



comgen@ofm.org



www.ofm.org



@ofmorg



@fratrumminorum



@ofm.org



flickr

Curia Generale dei Frati Minori
Via di S. Maria Mediatrix, 25
Roma, Italia

Director: Br Byron A. Chamann Anléu OFM
Translator: Br. John Luke OFM

OFM
Ordo Fratrum Minorum
© 2026 All rights reserved